

副校長 関口 義和

心地よい初夏の風とともに、こどもたちが楽しみにしている水泳学習が始まりました。

学校で行う水泳学習には、大切な命を守るための歴史的な「成り立ち」と「ねらい」があります。

学校プールのはじまりは「命を守るため」です。日本の学校にプールが本格的に普及したきっかけは、昭和30年(1955年)に起きた船の沈没事故(紫雲丸事故)でした。多くの小中学生が犠牲となり、

「こどもたちに泳ぎを教え、悲しい事故から命を守ろう」という世論が高まったことで、全国の学校にプールが作られました。学校の水泳は、何よりも大切な命を守るための「安全教育」として始まった歴史があります。

横浜市では、水泳を「生命に関わる重要な学習」として位置づけています。そのため、実技の有無に関わらず、以下のねらいがあります。

○安全に関する心得の遵守: バディシステムの徹底、プールのきまりや水泳の心得を守り、安全に行動する態度を育てます。

○安全確保につながる運動: 万が一の水難事故に備え、水中で息を確保しつつ浮き続ける(背浮きなど)など、自分の命を守るための基本的な動きを理解し、身に付けます。

○論理的思考力の育成: 水の事故を未然に防ぐための知識を学び、危険を予測・回避する知的な発達を促します。

本校では、高学年の児童を対象に、ライフジャケットの着用体験も取り入れ、事故に遭わないための海・川等での正しい備えについても実践的に学ぶ予定です。今年の夏、海や川等で事故に遭わないように、学校で学習したことを、自分の生活に生かしていけるように指導をしていきます。



【昨年度の学習の様子】

旗振り当番ご協力をお願い(瀬ヶ崎小学校 PTA) いつも旗振り活動およびこどもたちの安全な登校路の確保にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本活動は、皆様からの自発的なご協力に基づく【任意活動】ではございますが、こどもたちの登校路には交通量の多い交差点や見通しの悪い道路があり、毎朝の「大人の目」による見守りが、事故を未然に防ぐ最大の砦となっております。限られた人数ではこどもたちの安全を守りきることが難しく、大変恐縮ではございますが、すべての保護者の皆様にご協力をお願いしたく、強く重要性をご理解いただけますと幸いです。こどもたちの命と安全を守るため、何卒お一人おひとりの温かいご協力をお願いします。

